

国語

東京書籍

三省堂

教育出版

光村図書

令和6年度

中高・飯水地区中学校教科用図書採択研究協議会

種目（国語）

<p>採択基準</p> <p>発行者名</p>	<p>東京書籍（『新編 新しい国語』）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活で言葉を適切に活用するために習得すべき知識及び技能が、各単元で示されている。 ・「伝え合う力」を高められるよう、思考力、判断力、表現力等を育成する教材が配列されている。 ・生徒が「言葉」を意識し、主体的に学びに向かうことができるよう、多様な言語活動が位置付けられている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1)「言葉の力」として育成する資質・能力が明示されていて、学年が進み、単元を重ねていく中で学習が発展的になるよう配慮されている。 (2)登場するキャラクターのジェンダーやルーツが多様に描かれていたり、多様な考え方に配慮するために、現行教科書と比較して女性著者の割合が2割から3割強に増えたりしている。 (3)問題解決的な言語活動が多く、生徒同士が助言したり議論したりして考えを深め、互いの考えを生かして結論をまとめるなど、協働的に学びを充実させられるよう工夫されている。 (4)書き文字に近づけた特別な書体を使用しており、字形の認識を助ける配慮がされている。 (5)未習漢字や小学校で学習しない漢字には全て、教材の初出箇所にはふりがながつけられており、漢字を不得意とする生徒への配慮がされている。また、各教材での目標が「問いかけ」の形式で提示されることで学習課題を把握する助けとなり、学習意欲が高まるよう配慮されている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1)系統立てて設定された「言葉の力」に適した教材や言語活動が位置付いていて、段階的に指導できるよう単元が配列されている。 (2)「学びを支える言葉の力」の補助資料を関連の深い三領域の教材の前後に配置することで、既習内容を深めたり、後の学習に活用したりすることができ、知識及び技能の確かな習得につながるよう工夫されている。 (3)全ての領域において、学習の見通しと振り返りの過程を重視し、何に着目して学び、振り返るのかを生徒目線で示してあることで、主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。 (4)教材に関連した「読み比べ」や「図表との関連付け」「条件作文」等の内容を扱うことで、情報を精査する力、情報を関連付ける力、語感を磨き語彙を豊かにしながら表現する力等が養われるよう工夫されている。 (5)「文法の窓」では、言葉による説明だけでなく、成り立ちを図式化し、イメージを広げ理解しやすくなるよう工夫されている。 (6)単元末の「振り返り」において、「言葉の力」を箇条書きと図解で簡潔に示し、視覚的に理解を助ける工夫がされていて、全ての生徒が学びやすいよう配慮されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来を考えるための九つのテーマ」を明示し、学習を通して、現代社会や日常生活に関わるテーマの認識を深められる教材となっている。 ・つまずきや学習の広がりに対応するために、参考となるQRコンテンツの充実が図られている。

種目（国語）

<p>採択基準</p> <p>発行者名</p>	<p>三省堂（『現代の国語』）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文字、音声言語それぞれの分野、形態を網羅した教材配列がされている。 ・言葉による見方・考え方を働かすことができるように「読み方を学ぼう」によって、言葉を理解するための方略が示されている。 ・「読むこと」で学習過程、読み方、思考方法が視覚的に示され、「話すこと・聞くこと」「書くこと」でも繰り返し示されることで、課題解決に向けた力の定着化が図られている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1)3年生で学習する「具体と抽象」の関係などについて、単元末の「思考の方法」で1年生の教材から統一された形で示されており、三年生の本格的な学習に向けて段階的に力をつけていけるように設定されている。 (2)「三角ロジック」など、読んだり、表現したりするときの見方・考え方が明確に示されることで学びを焦点化できるように配慮がなされている。 (3)幅広い時代、ジャンルの作品が取り上げられ、全学年で現代的な課題を題材とした教材、他教科とのつながりのある教材が配置され、主体的な学びが喚起されるよう配慮がされている。 (4)明朝体・ゴシック体・教科書体が本文・見出し・新出漢字で使い分けられており、色使いに文字や情報が識別しやすい配慮がされている。 (5)教科書上段は本文、下段は言語に関する情報を掲載するなど、理解しやすいように整理されているほか、学習内容に関する二次元コードが掲載され個別最適な学びを保障している。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1)各領域において、学習した見方・考え方が繰り返し関連付けられており、言葉による見方・考え方の定着ができるように配慮されている。 (2)「話すこと・聞くこと」領域における「話し合うこと」が教科書の冒頭に設定されることで、協働的な学習意欲が高まるように工夫がされている。 (3)単元末の「語彙を豊かに」や「話し合うこと」等において、全学年で統一された話型や表現例が示されており、語彙力や表現力が定着するように工夫がされている。 (4)単元末で「振り返りのキーワード」が示されることで、生徒が文章の内容ではなく、学習事項を振り返ることができるように工夫がされている。 (5)「読み方を学ぼう」や「学習用語辞典」がまとめられており、既習事項を振り返りながら学習する際や予習的に学習をする際に確認しやすいよう配慮されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読み方を学ぼう」から学習事項が示され、各領域で活用場面が示されることで、見方・考え方の有用性を感じながら定着を図る構成になっている。

種目（国語）

採択基準	発行者名 教育出版（伝え合う言葉 中学国語）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びナビ」「みちしるべ」「振り返り」等の学習の流れが明示され、生徒が学習の内容を把握しやすく、主体的に学びやすい工夫がなされている。 ・内容を捉え、読み深め、考えを伝えあう学び方が單元ごとに示され、自己や他者との対話を通して考えを深められる工夫がされている。 ・豊かな言語感覚を養うために、系統的な学習を意図し教材、教材目標やねらいを設定し、生きて働く「言葉」の習得ができるように工夫がされている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1)各領域の教材が偏りなく配列されていて、1学年から3学年へと螺旋的に難易度をあげながら「習得」と「活用」を反復して押さえていくように設定されている。また、とくに1学年は「入門期」としてスモールステップで学習に取り組む、中1ギャップを解消するための配慮がされている。 (2)自分自身について考えたり、人としての生き方について学んだりする教材から、SDGsを踏まえた現代的な課題に関わる教材まで、多種多様な教材が各学年、バランスよく配列されている。 (3)「読むこと」教材の「みちしるべ」等で生徒の言語活動が設けられ、主体的・対話的な学びに導かれるよう工夫されている。 (4)ユニバーサルデザインに対応した書体や、学年にあったフォントのサイズ、デジタル機器で表示した際の視認性が向上した書体などを組み合わせて使用することで、生徒の学習理解や習熟に配慮がされている。 (5)挿し絵や図版・写真は、文章の理解を助ける資料性の高いものや活動の手順や留意点を明確に示すものなど、学習上必要なものが効果的に取り上げられている。合わせて、QRコードの読み取りにより、生徒自身が資料として活用をしやすいようになっている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1)各教材の目標が「学びナビ」で示され、3年間を通して系統的・段階的に学習が進められるように構成されている。 (2)学年内での系統や学年をまたいだ系統を大切に螺旋的、反復的な単元構成が意図されており、学習が進むにつれて言語力の高まりを生徒が感じられるように工夫されている。 (3)各教材で「目標」や「道しるべ」が明示され、かつ「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では「学びを生かす」項目により、国語の授業内だけで完結せず、他教科の学習や学校生活・社会生活へと学びをつなげながら、生徒が主体的に言語活動を通じた活動ができるよう配慮されている。 (4)各教材に「知識及び技能」の指導事項が設定され、言葉の機能や働き方、情報の扱い方や各領域で学ぶべき知識技能が身につくように構成されている。 (5)各単元、分野において資料性の高い挿し絵や写真、図表や年表などが取り上げられている。 (6)教材ごとに「目標」に対応した「振り返り」が明示され、本時の学びの振り返りや、次の学びにつながる振り返りができるように配慮されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭部分に「学びナビ」を置くことで、身につけさせたい力や学習活動の重点が明示され、生徒が見通しをもち主体的に学べる。また、重要事項を強調して記述してあるため、視覚的にも理解しやすい構成となっている。 ・全学年SDGsや情報・メディア教材が設けられている。また題材も漫画や脚本など、生徒が興味をもちそうな題材が多い。 ・「学びのチャレンジ」によって、文字以外の情報と文章を関連付けて考える力の育成を図っている。

種目（国語）

採択基準	発行者名 光村図書（国語）
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な国語の特質を理解し、実際に主体的に活用できる知識及び技能として習得できるよう工夫がされている。 ・互いに伝え合う力や、論理的に思考し想像する力を高め、思考力、判断力、表現力等を育成できるよう配慮がされている。 ・我が国の言語文化や国語を尊重して言語感覚を豊かにし、その能力の向上を図る態度を養えるよう工夫がされている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1)教材は、生徒の発達段階に応じて各領域が段階的かつ系統的に配置され、軽重をつける等、バランスの工夫がされている。 (2)1学年で身近な題材を学び、2、3学年で生き方や社会に関わる題材を学ぶ等、生徒の言語環境や興味関心、発達段階に応じて、幅広い分野から題材を求め、学習意欲が喚起されるよう工夫がされている。 (3)生徒の日常生活に関連したり、知的好奇心を喚起したりするような言語活動が設定されていることで、主体的・対話的な学びが促されるよう工夫がされている。 (4)ユニバーサルデザインフォントが用いられたり、生徒の発達段階を考慮して、学年が上がると字間や行間を狭めたりする等、読みやすいよう工夫がされている。古典の題材では効果的に学習できるよう文字配置に工夫がされている。 (5)「学びへの扉」「学びのカギ」では学習の流れや学習事項が示される等、見通しをもてるよう工夫がされ、図表も色に頼ることなく作成され、色覚特性への配慮がされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1)生徒の発達の段階や習熟の過程を考慮し、段階的かつ系統的に学習ができるように構成されている。 (2)全領域に「学びのカギ」が示されており、育成すべき資質・能力を、領域を超えて活用できるよう、単元相互の関連性や連続性が有効に図られている。 (3)「言葉による見方・考え方」を働かせて表現をするとともに、それについて意見や感想を伝えたり述べたりして、対話的に学ぶ活動が示されている。 (4)「語彙ブック」「思考のレッスン」「情報処理のレッスン」等知識及び技能に関する資料を用いて、3領域の学習と関連付け、段階的・系統的に学習できるよう工夫がされている。 (5)巻頭・巻末や教材中にさし絵や写真、図・グラフ、QRコード等が掲げられ、目的に応じて効果的に活用できるよう配慮がされている。 (6)「振り返る」が各教材のあとに設けられ、評価の観点が明確になるとともに、自らの学びを言語化して振り返ることができるよう工夫がされている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等横断的に取り扱える題材や、SDGsと関連する教材が選定されている。 ・「学びへの扉」により、活動を見通し対話的に考えを深め、資質・能力を育むことができるよう工夫がされている。